

Rapport

2019
Number

107

多摩大学 | 広報誌 |

Vol.107 Contents

多摩大学2018年度秋学期成績優秀者	02
2019年度アクティブ・ラーニングプログラム	03
多摩大学体育会フットサル部	03
【経営情報学部】後援会定期総会・教育セミナー	04
2019年度 第1回SRC	04
自転車競技ロードレース応援イベント	05
藤沢市江の島外国人アンケート調査	06
「大いなる多摩学会」2019年度定期総会	06
News	07
多摩地域の名所・旧跡④【江の島ヨットハーバー】	07
インターゼミ箱根合宿	08

多摩大学 2018 年度秋学期 成績優秀者

2018 年度 秋学期 成績優秀者奨学金奨学生

学業及び成績が優秀で人物及び健康ともに優れ、他の規範となる学生に対して、多摩大学奨学金規程に基づき審査を経て区分に応じた奨学金を支給しています。

●経営情報学部

■ 1 年次

・区分 1

学生氏名
木下 拓海
白井 ほのか
味蓼 恵月
三好 真以

・区分 2

学生氏名
安藤 淳司
石原 滉大
磯部 直樹
今平 竣也
大内 翼
庄司 剛
津布久 謙
伏見 凜久斗
船井 玲伽
村田 月夜
山本 啓介
和田 彩佳

■ 2 年次

・区分 1

学生氏名
上岡 萌絵

・区分 2

学生氏名
相澤 大虎
荒兼 悠人
石井 駿斗
伊藤 優
小田島 功弥
萱間 慶美
杉谷 佳希
田口 光
田中 梓
ZHAO DAN
津田 涼賀
中島 大地
馬場 明仁
藤盛 佑哉
正岡 采桂
武藤 萌
谷萩 優一
綿地 鈴夏

■ 3 年次

・区分 1

学生氏名
早川 礼奈
藤山 拓海

・区分 2

学生氏名
和泉 遼
伊藤 彪我
岩下 結
奥秋 壮登
栗林 真綸
小室 剛
白井 拓海
関 兼二郎
津布久 裕貴
中山 貴文
馬場 巽
浜崎 周平
二口 龍之介
丸田 健太郎
宮浜 洸介
矢倉 怜
山口 知徳
渡部 稜

●グローバル・スタディーズ学部

■ 1 年次

・区分 1

学生氏名
加藤 とまむ

・区分 2

学生氏名
遠藤 日向
鹿島 旭恵
Jallais Barbara Anastasia
内藤 歩
端山 泰平
松田 玲奈
溝呂木 仁太郎
宮川 かれん
吉村 優梨亜

■ 2 年次

・区分 1

学生氏名
川上 理沙

・区分 2

学生氏名
石川 舞
大岩 稔姫
佐藤 泰河
田尻 彩音

■ 3 年次

・区分 1

学生氏名
原田 花鈴

・区分 2

学生氏名
牛場 桃佳
内部 正太
尾島 帆志
神谷 雄太
坂本 貴彦
神丸 昂介
鈴木 佑哉
中村 叶ノ
藤田 きあら

※氏名 50 音順

※学年は 2018 年度のものとなります

2018 年度 秋学期 経営情報学部 優秀学生賞 受賞者



「飛騨高山の企業における SDGs を考える～持続可能な地域づくりを目指して～」を実施

飛騨高山大学連携センターによる支援のもと、アクティブ・ラーニングプログラム「飛騨高山の企業における SDGs を考える～持続可能な地域づくりを目指して～」を 2019 年 6 月 30 日～7 月 2 日に実施しました。

このプログラムのタイトルにもなっている「SDGs（持続可能な開発目標）」とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「誰一人取り残さない（leave no one behind）持続可能で多様性と包摂性の実現のため 17 のゴール・169 のターゲット」から構成されている開発目標のことです（外務省 HP 参照）。今回は、この SDGs を基に岐阜県高山市の地元企業研究をすることを目的として、多摩大学 24 名（うち大学院生 4 名、金美德教授、水盛涼一准教授、高橋恭寛准教授、野坂美穂専任講師、教務課 入内嶋礼子職員）、帝塚山大学 13 名（うち引率教員 2 名）、埼玉学園大学 7 名（うち引率教員 1 名）の計 44 名が参加しました。

フィールドワークでは、岐阜県高山市の 6 つの地元企業を訪問し、SDGs に対する取り組みについて学生がヒアリングを行いました。その後、ヒアリング内容と今後の取り組みに対する提言をグループワークで話し合い、最終日にはパワーポイントにまとめて発表を行いました。

多摩大学では、引き続き高山市の活性化に取り組むべく、情報発信や地域の方々との交流などを実践していく予定です。



アイスブレイキングの様子



グループワークの様子



飛騨高山大学連携センター前 集合写真



プレゼンテーション会場の様子



企業ヒアリングの様子（長瀬土建様）

多摩大学 体育会フットサル部 報告

<https://www.tama.ac.jp/futsal/>

「第 15 回全日本大学フットサル大会全国大会」優勝！大学日本一に！

多摩大学体育会フットサル部は、2019 年 8 月 23 日から 25 日に岸和田市総合体育館（大阪府）で行われた「第 15 回全日本大学フットサル大会全国大会」に関東地域第一代表として決勝に進出。桐蔭横浜大学フットサル部（関東地域第二代表）に 5 対 3 で勝利し、優勝、さらにフェアプレイ賞も受賞しました。創部して 7 年目、全国大会初優勝を果たし、念願の大学日本一の栄誉を得ることができました。



〈2019 年度 新入部員の紹介〉 新入生 6 名を加え、総勢 25 名（選手 24 名、マネージャー 1 名）で連覇を目指します！



2 荒木 辰文



3 足立 信吾



4 大野 大



9 藤本 毅



15 山下 龍王



18 能嶋 昭登

後援会定期総会・教育セミナー

2019年6月16日、多摩キャンパスにて「経営情報学部後援会定期総会・教育セミナー」を開催しました。当日は後援会定期総会と併せて、学内施設の見学ツアー、教育セミナー（経営情報学部の教育方針、学生による学修成果報告会、ゼミ別懇談会とアクティブ・ラーニングおよび留学個別説明会）が行われ、多くの保証人の皆様の参加がありました。

○後援会定期総会

第1号議案（2018年度事業報告（案）・決算報告（案））、第2号議案（2019年度事業計画（案）・予算（案））、第3号議案（2019年度後援会役員選任）について審議され、いずれも承認されました。

○教育セミナー 第1部

南雲博之後援会会長による挨拶の後、杉田文章 副学長（兼）経営情報学部長より「経営情報学部の教育方針」として、多摩大学の実学教育、多摩大学における国際交流プログラムとアクティブ・ラーニング（AL）プログラムへの取り組みと成果、キャリア教育と就職支援、多摩大学が取り組むジェロントロジー「大都市郊外型高齢化社会工学」などについて説明しました。

続いて、「学生による学修成果報告会」では4名の学生が登壇し、それぞれ「ITビジネス」「国際交流」「イベント活動」をテーマに発表しました。学生たちは、「国が異なっても人はそれほど違わないと感じた」「留学により英語力が上達し、内面的に成長した」「ゼミでの学びにより、ものづくりの魅力を発見し、コミュニケーション能力が向上した」など成果を報告しました。また、質疑応答では会場から「多摩大学に入学してよかったと思うこと」などの質問があり、学生は教員との距離の近さや少人数指導、ゼミを通じた地域活動などをあげていました。

○教育セミナー 第2部

ゼミ別に各教室へ移動し、ゼミ担当教員と保証人の方々が懇談、その後、アクティブ・ラーニングプログラムや留学・学生生活の状況などについて教職員との個別相談会を実施。情報交換や質疑応答など保証人の皆様と教職員が直接交流できる有意義な機会となりました。



後援会定期総会の様子



教育セミナーの様子



学生による学修成果の報告



保証人の方とゼミ担当教員が懇談

2019年度第1回SRC (Student Research Conference)

2019年7月13日、多摩キャンパス211教室と212教室にてSRC (Student Research Conference) が開催されました。SRCは経営情報学部の学生がホームゼミにおける研究成果を発表する場で、年2回（夏・冬）行っています。今回のSRCでは25件の発表があり、1件につきM10分、L15分の持ち時間が与えられ、教員や学生からは様々な質問や意見、アドバイスがありました。

教室	時間	名前	タイトル	ゼミ名
211	M	真坂 省吾	タバコのメリット、デメリット	大森拓哉ゼミ
	M	小島 龍郎	タバコのメリットでメリットから禁煙すべきか	大森拓哉ゼミ
	M	谷菽 優一	VRを用いた自転車練習の効率向上	出原至道ゼミ
	L	相澤 大虎	VR空間でのホームラン体験システム	出原至道ゼミ
	M	ラウ 佐光 マシュー	VRによる試し斬り再現	出原至道ゼミ
	M	Beyaztunc Armagan	Celestia での宇宙旅行	出原至道ゼミ
	M	Forget Samuel	Implementation of Taiko simulation	出原至道ゼミ
	M	山口 裕也	読書による知識の差	大森拓哉ゼミ
	M	神谷 侑陽	真ん中効果の実験	大森拓哉ゼミ
	M	平田 大貴	授業中の睡眠の影響	大森拓哉ゼミ
	M	河崎 千晏	新聞社説 私ならこう書く（毎日新聞を題材として）	出原至道ゼミ
	M	佐藤 活希	新聞社説 私ならこう書く（読売新聞を題材として）	出原至道ゼミ
	M	入江 孔稀	新聞社説 私ならこう書く	出原至道ゼミ
212	M	磯部 直樹	ローカル線を利用した地方の活性化	中庭光彦ゼミ
	M	大野 将来	地域ビジネスとキャッシュレス決済	中庭光彦ゼミ
	M	梅沢 万結	お化粧について	大森拓哉ゼミ
	M	角田 信鳳	健康になるには	大森拓哉ゼミ
	M	松山 明日香	占いを信じる？信じない？	大森拓哉ゼミ
	M	秋山 京吾	パチンコパチスロをやめられる人とやめられない人の違い	大森拓哉ゼミ
	M	杉谷 佳希	節約はすべきか	大森拓哉ゼミ
	M	山口 雄資	被災地の観光プランディングの方法	中庭光彦ゼミ
	L	余 帆 (ヨホ)	温泉郷一箱根モデルの研究	中庭光彦ゼミ
	M	西田 翔一	観光復興とスタディーツーリズム	中庭光彦ゼミ
	M	石川 将基	マークシートの選択肢の数による正答率の変動	大森拓哉ゼミ
	M	夏目 俊成	なぜ、日本人は外国語を話せないのか	大森拓哉ゼミ



「自転車競技ロードレース応援イベント ～東京 2020 開催まであと 1 年！～」開催



東京 2020 では自転車競技ロードレースが多摩市内を通過し、多摩キャンパス正門前の道路も競技コースに選定されています。2019年7月21日には、ナショナルチームが参加する男子ロードレースの「東京 2020 テストイベント READY STEADY TOKYO 自転車競技（ロード）」が実施され、同日、多摩大学多摩キャンパスにて、市内 6 大学連携イベント「自転車競技ロードレース応援イベント～東京 2020 開催まであと 1 年！～」(主催：多摩市オリンピック・パラリンピック大学連携協議会 ※多摩市、大妻女子大学、桜美林大学、恵泉学園大学、国士館大学、東京医療学院大学、多摩大学)が開催されました。このイベントは、多摩市内にキャンパスのある 6 大学の学生たちと多摩市が連携して、「東京 2020 自転車競技ロードレース」に向けて気運醸成を図り、大学連携のネットワークの構築を目的としています。多摩市オリンピック・パラリンピック実行委員会、6 大学の学生メンバー、多摩大学学生スタッフが運営を担い、国士館大学 田原淳子教授による講演会、サイクリング VR・ロードレース自転車・ボッチャ（パラリンピック正式種目）の体験イベントを実施しました。当日は近隣住民や本学の学生を含め 496 名の来場者があり、多摩キャンパス前の沿道では自転車競技ロードレース選手の方々にたくさんの声援を送りました。



ロードレースのコースなどを映像で紹介



学生スタッフがペットボトル飲料を配布



体験イベント

講演会



講演

「オリンピックを通じての国際交流・国際理解」

講師

国士館大学 体育学部こどもスポーツ教育学科
田原 淳子 教授

オリンピックの誕生と歴史、理念などについて解説、1964 年東京オリンピックが開いた世界について述べ、2020 年東京オリンピックに向けてのメッセージを語りました。



サイクリング VR 体験（アリーナ）
VR でサイクリングを体験



競技用自転車体験（アリーナ）
競技用自転車をこいで最高速度を体験



子供向け自転車体験（T-Studio 横の屋外）
おもしろ自転車などを体験



ボッチャ体験（アリーナ）
パラリンピック競技のボッチャを体験



東京 2020 オリンピック自転車ロードレースとは？

自転車ロードレースは 1896 年のアテネ大会から実施されている歴史ある競技で、男子は全長約 244km、女子は約 147km の距離で開催されます。東京 2020 では武蔵野の森公園（東京）をスタートし、ゴールの富士スピードウェイ（静岡）までのゴールタイムを競い、多摩市内 11.8km 区間がコースに決定しています。本大会は、2020 年 7 月 25 日（男子）、26 日（女子）に開催されます。

〈藤沢市江の島外国人アンケート調査〉 語学力を生かして地域の観光に貢献

多摩大学グローバルスタディーズ学部堂下ゼミナールでは、2015年度より公益社団法人藤沢市観光協会の江の島外国人アンケート調査を受託し、質問票の作成や回答の集計、分析を担当しています。アンケート調査は藤沢市観光協会の職員や外国語ボランティアガイドの皆さんとゼミ学生が一緒になって神奈川県藤沢市江の島で年4回実施しています。

2019年度は8月1日に第1回目の調査を実施しました。ゼミ学生は習得した語学力を活かして江の島を訪れる外国人に声をかけ、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語のいずれかのアンケートに答えてもらいました。アンケートを回答する時間のない外国人には、その場で英語や中国語、韓国語、スペイン語等で「どこから来ましたか」と質問し、藤沢市観光協会が用意された世界地図にシールを貼ってもらって出身地を調べました。藤沢市では音声翻訳機を使った外国人への情報発信の実証実験が行われており、今回のアンケート調査でも9名の学生に音声翻訳機が渡されました。音声翻訳機を使用した学生は、メディアの取材や音声翻訳機についてのアンケートにも協力しました。

2019年度は10月、12月、1月末にも江の島でアンケート調査を実施する予定です。残り3回の調査と並行して、回答内容の集計や分析も進めます。江の島は東京2020オリンピック・パラリンピックのセーリング競技会場となっていますので、学生達の取り組みは藤沢市の観光に役立てられます。



「大いなる多摩学会」2019年度総会 —テーマ『生と死のジェロントロジー』—

2019年7月30日、多摩永山情報教育センターにて、「大いなる多摩学会」2019年度総会が開催されました。大いなる多摩学会(以下、学会)は、2016年7月16日、寺島実郎学長を発起人として多摩大学と各界の方々約80名と共に設立。広域多摩地域という大都市近郊や郊外が抱える課題を解決するため、産官学民が連携して実施する研究開発を支えるプラットフォームとなることを目指しています。

今年度のテーマは「生と死のジェロントロジー(高齢化社会学)」。人生100年時代と呼ばれる長寿が可能になる時代、テクノロジーの進化によって死に対する価値観や対処の仕方が変わり、そこに関わるビジネスのあり方も変わろうとしています。今回の学会では、「死」という側面から高齢化社会の課題とその解決方法を捉え直し、新しい可能性について議論しました。

○総会 大いなる多摩学会副会長 久恒啓一氏による挨拶。その後、第1号議案 2018年度事業報告、第2号議案 2019年度事業計画が承認されました。

○研究プロジェクト報告 ①「健康まちづくり産業」プロジェクト(株式会社ファンケル 執行役員 青砥弘道氏) ②「ビッグデータ活用による“大いなる多摩”創生」プロジェクト(佐藤洋行准教授) ③「湘南藤沢におけるインバウンド」プロジェクト(橋詰博樹特任教授) ④「創業支援プラットフォーム」プロジェクト(松本祐一教授)

○テーマセッション キーノートスピーチ「葬儀社の今までとこれから～人生100年時代の死のあり方～」(株式会社セレモア 事務局長・常務取締役 中島重夫氏)

○関連研究・プロジェクトの紹介 「多摩大学ジェロントロジーパネル調査 調査設計・集計分析結果」(加藤みずき専任講師・久保田貴文准教授)、「食べることは生きること」(管理栄養士 所澤和代氏)。



総会の様子



佐藤洋行准教授(研究プロジェクト報告)



株式会社セレモア 中島重夫氏(キーノートスピーチ)



加藤みずき専任講師(関連研究の紹介)

「多摩大学× GAF A 企画」のトークイベントを開催

2019年7月12日に「多摩大学× GAF A 企画」のトークイベントを実施しました。ゲスト講師には元 Facebook 社の榎本貴様（※1）をお迎えし、「偏差値と学歴コンプレックスを超えた男の物語」というテーマで語り尽くしました。多摩大学生はもちろん、保護者の方や多摩大学附属聖ヶ丘中学・高校の生徒も参加し、質疑応答は途絶えることなく終了時刻を迎えました。

終了後のアンケートからは、銘柄大学でない榎本様が学生時代に行ってきた「シンプルながらも力強い行動」の数々や「量が質に転化する」という事実、そしてそれらが決して「手の届かないアイデアではない」ことを、参加者の皆様に掴み取っていただけたことが確認できた、そんなイベントとなりました。

ゲスト講師の榎本様をはじめ、ファシリテーションに協力いただいた稲田創さん（※2）、上岡萌絵さん（※3）にこの場を借りて御礼申し上げます。

（※1）東京経済大学卒業後、リクルートに入社。その後、

Facebook 社を経て EDIIT Inc. を設立。

（※2）東京経済大学在学、EDIIT にてインターンシップ中

（※3）本学在学



当日の映像はこちら→

企画：キャリア支援課



榎本貴氏



聴講する学生



ファシリテーションした在学生

イベントの予定

経営情報学部

2019年12月1日（日）

保証人向け就職関連セミナー

多摩キャンパスにて開催予定

（11月に詳細・申込方法についてご案内させていただきます）

グローバルスタディーズ学部

2019年11月3日（日）午後

保証人対象 留学フォーラム及び就職セミナー

湘南キャンパスにて開催予定

※「第13回SGS Festa」2日目に開催

（10月中旬に詳細・申込方法についてご案内させていただきます）

地域再発見

多摩地域の名所・旧跡 ④

江の島ヨットハーバー（藤沢市）

オリンピックのレガシーが刻まれた競技用の港

「江の島ヨットハーバー」は、江の島の東側に位置する湘南港にあります。2015年6月8日、東京2020オリンピック・パラリンピックのセーリング競技会場として承認されました。

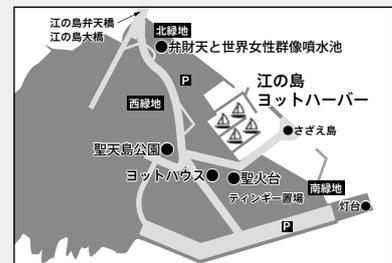
江の島では1964年の東京オリンピックでもヨット競技が開催されています。これに際し、湘南港にはヨット係留施設、ヨットハウス、クルーザーヨット泊地、ディンギー陸置場、駐車場なども設置された日本初の競技用ヨットハーバーが建設されたのでした。55年の時を経た今も湘南港は国内有数の公共ヨットハーバーとして、数々のヨットレースが開催されています。

江の島に初めて栈橋が架けられたのは1891年、現在のコンクリート造の江の島弁天橋（歩行者用橋、橋長389m・幅員3.7m）に架け替えられたのは1958年です。平行する自動車専用の江の島大橋（橋長324m・幅員11m^{※1}）は、1962年にヨット競技用地整備に伴い建造されたものです。江の島弁天橋たもとの北緑地広場には、湘南港竣工とオリンピック東京大会ヨット競技開催を記念してつくられた『弁財天と世界女性群像噴水池』（ブロンズ彫像製作者：加藤顕清）があります。池の中央には弁財天、周囲には東洋と西洋の女性像、計5体のブロンズ像が設置されています。ヨットハウス前の庭には海を背後に聖火台が直立し、モニュメントとして当時のオリンピックを物語ります。道路を隔てた聖天島公園周辺は「聖天島」という島でしたが、湘南港造成の際に埋め立てられ陸続きとなりました。現在は岩肌の上部が残り、社には鎌倉時代の僧良真（聖天上人）の像が安置されています。

オリンピックのセーリング競技は1900年の第2回パリ大会に始まり、1996年のアトランタ大会までは「ヨット」が呼称、2000年のシドニー大会から現在の「セーリング」に変更されました。東京2020では7月26日から8月5日まで全8種目の競技が実施されます。

※1 セーリング競技開催に向けた会場整備の一環である車道拡幅工事により幅員は9.6mから11mに拡幅。2019年8月3日から共用開始。

※多摩大学において「多摩地域」とは、多摩川と相模川に挟まれた大きな三角地帯、さらに三浦半島なども含めたエリアを広域多摩地域と捉えています。



江の島ヨットハーバー



弁財天と世界女性群像噴水池



聖火台



聖天島公園

インターゼミ箱根合宿

2019年7月31日・8月1日にインターゼミ箱根合宿が行われました。

インターゼミ（社会工学研究会）は経営情報学部とグローバルスタディーズ学部の学生に大学院生及び卒業生を加えた学部横断、学年縦断型のゼミナールです。10名～20名単位で5つのチームを作り研究テーマを設定して文献研究とフィールドワークを通じてチームとして課題に対する論文を1年間かけて書き上げます。

サービス・エンターテインメント班、AI班、アジア・ダイナミズム班、多摩学班、地域班という5つのグループごとに中間発表を行いました。質疑応答では活発な質疑が飛び交い、最後は寺島実郎学長から講評と研究の方向性に対してのアドバイスに加えて、温かい激励がありました。緊張感も漂う中、チーム一丸となって切磋琢磨しながら課題に向き合う共同研究は、大変意義のあるものとなりました。

夕食、そして懇親会と果てしなくプログラムは続き、その後のディスカッションはより深く、共に過ごす存在の重さを知る貴重な場となりました。今回の中間発表では文献調査やフィールドワークの現地調査が非常に多くなされており、「ゼミカが多摩大」を思わせる好発進の内容となりました。秋学期に入るとチーム論文の完成に向けてさらに研究が活発になります。

〈中間発表研究内容〉

- サービス・エンターテインメント班：多摩地域のコミュニティ形成～高齢者の社会参画と地域づくりプラットフォームの構築を中心に～
- AI班：AI活用の現代
- アジア・ダイナミズム班：モンゴル帝国と朝鮮半島
- 多摩学班：多摩地域の産業から未来を描く～住み続けたい街の実現に向けて～
- 地域班：地域活性化への疑問符



サービス・エンターテインメント班



AI班



アジア・ダイナミズム班



多摩学班



地域班



質疑応答



寺島実郎学長講話



夕食

お知らせ

多摩キャンパス

2019年11月9日(土)・10日(日)

経営情報学部

第31回多摩祭 グローカル・フェスタ 2019 in TAMA

「時代～過去・未来へのタイムスリップ～」

2019年11月2日(土)・3日(日)

湘南キャンパス

グローバルスタディーズ学部

第13回 SGS Festa 2019

「Connection～繋がり～」